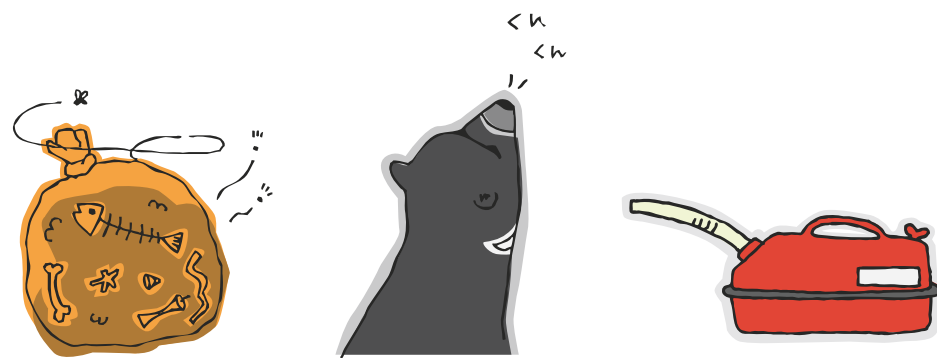


1. 害獣(ケモノ)の生態習性を知る

犬よりも鼻が利く

- 食べ物の匂い、肉や魚の腐りかけた匂い、油脂の匂い、花の匂い、ハチミツの匂いなどのほか、ガソリンやクレオソートなどにも引き寄せられる。



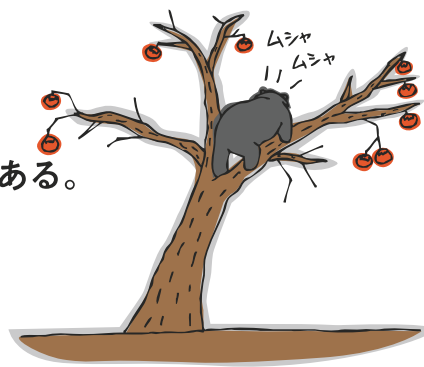
食べ物を記憶する力が強い

- 美味しいものを食べた場所や時期を忘れず、毎年食べに来る。



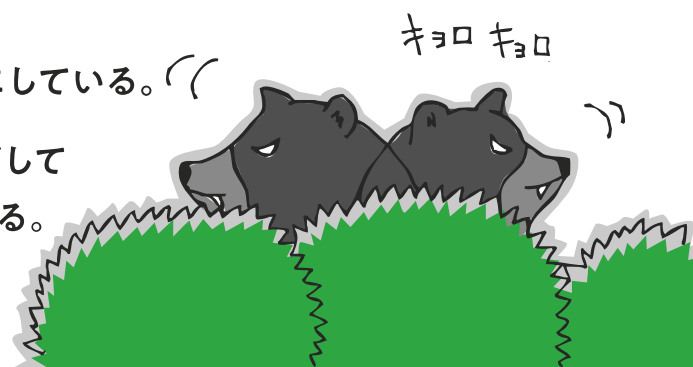
食欲が激しくて強い

- 食べることに夢中になると、人が近くに来ても気づかないことがある。
- 食べているところに近づくと「食べ物を横取りされる」と感じて攻撃してくることもある。



臆病で用心深い

- 移動するときは、朝夕や夜に河川や森(藪)の中など、人にあわないようにしている。
- 近い距離で、とつぜん人にであうなどして驚くと反射的に攻撃してくることもある。



クマ(ツキノワグマ)はこのような動物

人里まで出てくることもある

- 冬ごもり前には、からだに脂肪を蓄える必要があるため、お腹がすくと、エサを求めて人里まで出て来ることがある。



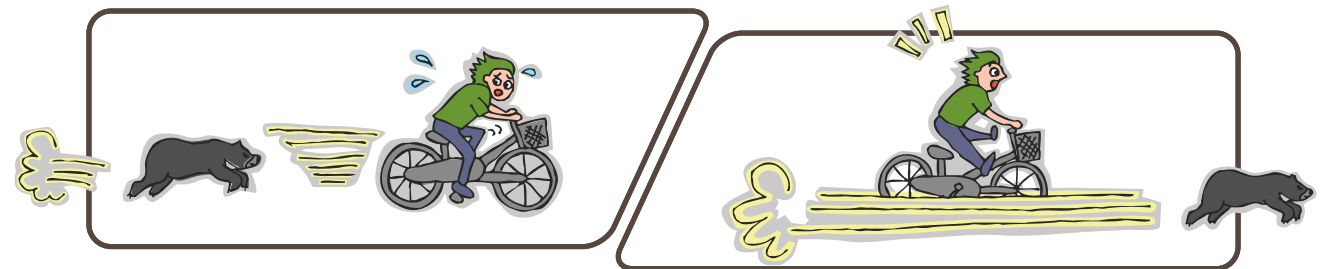
子連れの母グマは怖い

- 子グマを守るためにイライラと攻撃的になる母グマがいる。



俊敏で速く走れる

- 攻撃するときは動きが素早く、逃げて行くものを走って追いかけることがある。



歯が大きくて、鋭く噛む力が強い



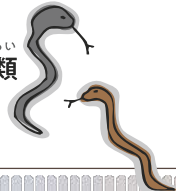
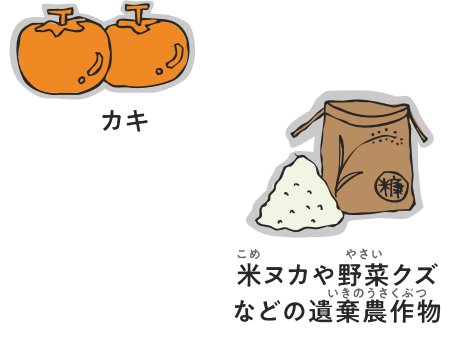
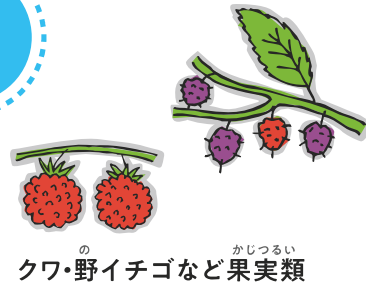
腕の力が強くて、鋭い爪がある

クマの一年（おもな食べ物と行動）

たもの食べ物



カエルなど両生類



でやすい場面や場所

○山菜採り、溪流釣り、山遊び ○朝晩涼しい時間に川や林の近く

○クルミ・クリ・ブナ・ナラ・カキなど実のなる木の近く

行動の特徴

○活動開始期
栄養状態、子連れか単独か、体力の違いなど
個体差や、残雪量・気温・新芽新葉状況など、
地理的・気候的地域差がある。

○分散期・発情期
親から離れた単独のクマが、新たな生息域を
求めて移動。特にオスは、梅雨前後に行動
範囲が拡大する。子連れのみスにつきまとう
オスも多い。

○避暑期
暑さを避け高山または河川付近の風通しの
良い木陰や水際など冷涼な場所に移る。



山さ
行くどぎは
クマに
気をつけれ!

○飽食期
冬籠の準備のため脂肪を蓄積する時期。気温の変化で
(日最低気温20度を下回る頃)で、食欲のスイッチが入る。
クリ、ナラ、ブナなど木の実を中心に食べ、木の実が
不作の年は、人里までエサを求めて出没するクマや、
人里をエサ場や生活の場とする「里グマ」も増えている。

近頃は家の
近くまで
来っからなあ



○冬籠期
降雪期(日最低気温5度を下回る頃)に入ると、
越冬穴に移動~穴入りするが、降雪や気温・栄養蓄積
の状態によって穴入りせず徘徊するクマもいる。

これらの習性は一般的なもので、実際には
個体差があって予想外の行動をすることがあります!



「クマは山にいるもの」という
常識が当てはまらない「里近くにすむクマ」もいます!

